

令和2年7月20日（月曜日）

水害常習化に抜本的な対策を

自民党の足立敏之参院議員は11日、2020年7月豪雨による被害を受けた熊本県と岐阜県の被災地を視察した。17日に取材に応じた足立議員は「水害の常習化を踏まえると、抜本的な対策が必要だ。被災自治体の首長との話では、防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策の財源により

対策ができた箇所もあったと聞いた。継続してほしいとの要望をいただいております、新たな計画策定が必要だ」と訴えた。

熊本県では、深刻な浸水被害が発生した人吉市や球磨村、土砂崩れのあった津奈木町、芦北町、八代市の被災現場を確認。人吉市の中心街である九日町では5分以上

の浸水により建物の2階まで被害が及んでいた。

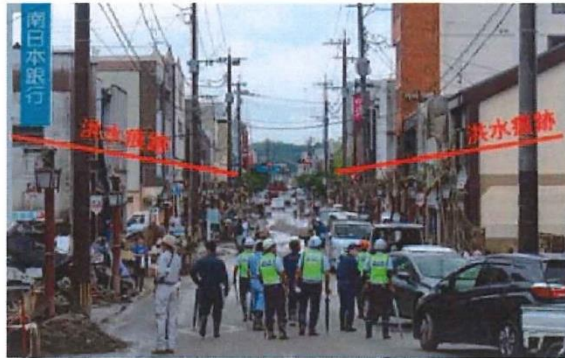
足立議員は、「人吉市は球磨川本川と川辺川の合流点にある盆地で水が集まりやすく、下流が渓谷となっているため、歴史的に浸水被害が頻発してきた」と説明。球磨川本川の上流には市房ダムがあるが、「小規模で洪水調節機能は小さい。今回の未曾有の災害を踏まえて、川辺川上流のダム整備を含めた抜本的な治水対策を検討する必要がある」と提案した。

川辺川ダムについては、かつて整備計画が進行していたが、09年の民主党政権下で工事の中止が決定。それ以降、県では「ダムによらない治水」の検討を進めていた。熊本県に続いて、岐阜県下呂市と高山市の被災状況も視察した。「犠牲者が出なかったのが不思議なくらい深刻な被害だった。首の皮一枚の切迫した状況だった」と語り、国道などの早期復旧に全力を挙げる必要があるとした。



被害状況を確認する足立議員（右手前）

足立議員が熊本、岐阜の豪雨被災地視察



人吉市九日町の被災状況

早期復旧に全力必要